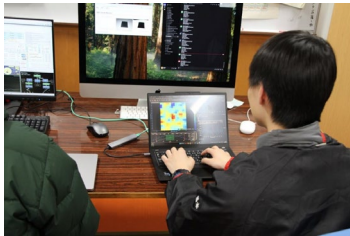


宇宙を「見上げるもの」から「使いこなすもの」へ。 大阪電気通信大学が宇宙・気象プログラムを始動 ～実践型教育プログラムと学習アプリを公開～

大阪電気通信大学（大阪府寝屋川市・四條畷市/学長：塩田邦成）は、宇宙線物理学・電波天文学・レーダー気象学・ニュートリノ天文学などを専門にする教員8人が結集した「宇宙・気象プログラム」を開始し、専用Webサイトおよび宇宙・気象シミュレーションアプリ「Sky_Sim_App」を公開しました。

野辺山宇宙電波観測所・チリのALMA・米国のテレスコープアレイ・スーパーカミオカンデなど世界最高峰の観測施設が生み出す本物のデータを「取得、分析、考察する」実践的な学びを提供します。



【本件のポイント】

- **世界最高峰の観測網と直結した実践型プログラム**：野辺山・ALMA・テレスコープアレイ・スーパーカミオカンデといった国内外の観測施設のデータを教材に用い、宇宙線・電波天文・ニュートリノ・レーダー気象という複数分野を横断。データを「取得、分析、考察」する力を身につける。
- **学科の枠を越えて教員が連携**：異分野の教員8人がチームを構成。学科の枠を越えた指導体制で、データサイエンスとエンジニアリングを横断する実践力を養う。
- **学習コンテンツ・アプリを一般公開**：宇宙・気象の基礎を解説する「宇宙・気象ノート」、シミュレーション体験ができる「Sky_Sim_App」、3D数学関数アート「Math_3D_Art_App」など、デジタルコンテンツを順次公開。

【本件の内容】

現代社会において宇宙は「憧れのロマン」ではなく、衛星測位・気象予報・通信インフラを支える実用的な基盤となっています。その一方で、天文学・気象学・宇宙工学を本格的に学べる教育環境は、理工系大学においても専門が分断されたまま提供されることが多く、「宇宙と気象を横断してデータで理解する」機会は限られていました。

本プログラムは、こうした課題に応えるべく、基礎理工学科と通信工学科が連携して発足したものです。リーダーを務める多米田裕一郎教授は最高エネルギー宇宙線の起源解明を専門とし、テレスコープアレイ実験（米国ユタ州）など国際的な観測プロジェクトへの参加実績を持ちます。電波天文学を専門とする前田郁弥講師は近傍銀河の星形成研究、レーダー気象学の柴垣佳明教授はドップラーレーダーによる気象解析、気象予報士の資格を持つ中田亮生教授は気象・水象の実用研究と、異なる専門が宇宙とデータというキーワードのもとに集結しました。教員陣のネットワークを活かし、実際の観測データを使った演習・解析体験を授業に組み込むとともに、学習コンテンツも整備していきます。また、専用サイトでは、宇宙線・電波天文・気象の仕組みをゼロから学べる解説記事や、宇宙・気象現象のシミュレーションを手軽に体験できるアプリ「Sky_Sim_App」を掲載。オープンキャンパスでは本プログラムの展示・体験コーナーを予定しています。

本学では、学生が本物の科学データに触れ、データサイエンスとエンジニアリングの力で社会課題に挑む実践の場を提供し続けてまいります。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

学校法人大阪電気通信大学 法人事務局 広報部広報課 担当：東
TEL：072-824-3325 FAX：072-824-1141 MAIL：kouhou@osakac.ac.jp